



こども発達支援 ガイドブック



芽室町




はじめに

日々、子育てで悪戦苦闘しながらも、子どもの愛らしい姿や、日々成長する姿を見ると幸せな気持ちになります。一方、成長に伴い、これまで親の言うとおりに過ごしていた子どもが自己主張を始めると、子育ての大変さが増してきます。成長している証とはいえ、子どもの言動一つ一つに対し、「どうして？」という疑問が増え、対応に困ることも多いのではないのでしょうか。

また、インターネットや SNS では「発達が気になる」や「発達障がい」という言葉をよく目にします。子どもの発達について不安や心配を抱えている保護者の方が多いことの現れなのではないでしょうか。ここ数年、子育て支援課に寄せられる発達に関する相談の数は、毎年100件以上に上ります。

このパンフレットでは、一般的な子どもの発達の様子やかわり方に加え、発達障がいに関係する内容について共有する目的で作成しました。保護者だけでお子さんの心配ごとや困りごとを抱えず、このパンフレットが周囲の人や町への相談のきっかけとなれば幸いです。



 もくじ

一般的にみられる子どものそだち

- 0～3歳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3ページ
- 3～6歳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4ページ

幼児期におすすめのかかわり方

- 短い言葉でゆっくりと伝えましょう・・・・・・・・・・5ページ
- ほめて伸ばしましょう・・・・・・・・・・・・・・・・・・6ページ
- 注意するときには、肯定的な言い方で伝えましょう・・7ページ

こんな様子はありませんか？

- 0～3歳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8ページ
- 3～6歳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9ページ

かかわり方の工夫

- 言葉がなかなか出てこない
- かんしゃくがひどい・・・・・・・・・・・・・・・・・・10ページ

発達障がいについて

- 発達障がいとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・11ページ
- 発達障がいの種類・・・・・・・・・・・・・・・・・・12ページ

- 発達が気になったら（相談先）・・・・・・・・・・・・・・・・13ページ



一般的な子どものそだち（0～3歳）

子どもの発達には一定の順序があり、途中を跳び越すことなく進むといわれています。順序を知ることによって、子どものおおよその発達がわかります。

0歳

- ・あやすと微笑む、微笑みかける



- ・名前を呼ばれると手を挙げる

1歳

- ・初めて意味のある言葉（マンマなど）ができる

- ・「マンマだよ」などの簡単なことばの指示がわかる

- ・「ワンワンどれ？」などの質問に指差して答える

2歳

- ・「ワンワン、いた」のように単語をつなげて言う

3歳


- ・簡単なごっこあそびをしはじめる





一般的な子どものそだち（3～6歳）

3歳を過ぎると多くの子が集団に入ります。言葉で伝えられることも増え、子ども同士のコミュニケーションが盛んになります。

- 
- 3歳
- ・自分の経験をことばで伝えることができるようになる
 - ・好きな友だちと、貸し借りや順番を守ることができる
- 4歳
- ・「だって～だから」と理由を言う、「～だけれども」と我慢しはじめる
- 5歳
- ・「あのね、えっとね」と文脈を作り、説明できるようになる
 - ・家や保育園（幼稚園）だけでなく、友だち同士の世界を作りはじめる

6歳





幼児期におすすめのかかわり方

○短い言葉でゆっくりと伝えましょう


一度にひとつの内容（○○します）、ゆっくりとしたペースで伝えると子どもは聞きやすいです。忘れることも多々あるので繰り返し伝えてあげましょう。



靴と上着を脱いで
手を洗います。



○○ちゃん
まず靴を脱ぎます。
次に上着を脱ぎます。
それから手を洗います。

話しかける前に、
 「○○ちゃん」と注目を
向けることで、話を聞く
姿勢が作りやすくなります。

○ほめて伸ばしましょう

ほめられることは多くの子にとって嬉しいことで、ほめられたことは次も頑張ろうという自信にもつながります。普段から、子どものできていることに注目し、些細なことでもほめることで子どもとの良い関係を築くことにもつながります。



洗濯物を畳むの
上手だね♪

運ぶの
手伝ってくれて
ありがとう。



○注意するときは、肯定的な言い方で伝えましょう

「〇〇しないでね」「〇〇はダメ」などの否定的な言い方よりも、子どもが何をしたら良いのかを伝える「〇〇しようね」といった肯定的な言い方が伝わりやすいです。



こんな様子はありませんか？（0～3歳）

「一般的な子どものそだち」にあるような反応や成長が見られない場合は、育て方に工夫や配慮が必要なお子さんなのかもしれません。少しでも気になる様子が見られたら、まずは相談することをお勧めします。

あやしても笑わない
（泣き止まない）

言葉がゆっくり
（意味の分かる言葉が少ない）

指さしをしない



名前を呼んでも
振り向かない



目が合いにくい

手を繋ぐ、抱っこなど
触れることを嫌がる

🍃 こんな様子ありませんか？（3～6歳）

3歳を過ぎると多くの子は保育所（園）や幼稚園に入ります。今まで家庭ではわからなかった子どもの様子が見られるようになります。お友だちとの違いが目立つようになるお子さんもいます。

場の状況に合わない
内容を話す

物を並べる遊び、
回る物など規則的な
動きを好む

かんしゃくがひどい



遊びを途中でやめる、
別の活動に移るなど
切り替えが難しい

予定の変更、行事など
いつもと違うことがあると
強い不安感を感じる



かかわり方の例

○言葉がゆっくり

言葉を促すうえでは、「言葉で伝えてよかった」という経験を積み重ねることが基本となります。まずは、子どもができる表現（行動、言葉ではない発声など）から、子どもが伝えたいことをできるだけ大人が理解して応えることから始めます。「おもちゃがほしい」を要求する場面は頻度が多いので絶好の機会です。子どもが大人をほしいうものまで連れて行ったとしたら、ものをわたしながら「ちょうだい」と言葉を添えて渡すことで要求の言葉を教えることができます。



○かんしゃくがひどい

かんしゃくを起こす主な理由として、「自分の思い通りにならない」ことが考えられています。また、「どうしていいかわからない」ことに強い不安や恐怖を感じるものがきっかけとなる子もいます。かんしゃくは突然起こったかのように感じることも多いですが、その子なりの理由が必ずあります。まずは、その場から子どもと一緒に離れ、静かな場所で落ち着くまで待つことで、切り替えやすくなります。



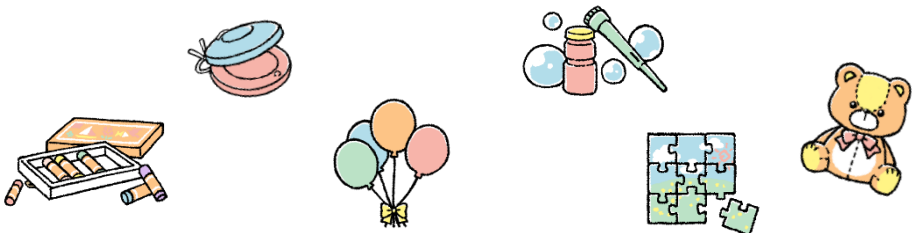
発達障がいとは

「気になる様子」が見られるお子さんの中には、「発達障がい」と診断されるお子さんがいます。

発達障がいは、脳機能の発達に関係する障がいです。発達障がいのある人は、他人との関係づくりやコミュニケーションなどがとても苦手ですが、優れた能力が発揮されている場合もあり、周りから見てアンバランスな様子が理解されにくい障がいです。

発達障がいの特性を持つ子どもたちは、頑張っているのに失敗しやすく、周囲からは「やる気がない子」「努力不足」などと評価されやすいです。しかしこれらは特性によるものであり、決して本人のやる気や努力の問題ではないこともわかっています。

早期から子どもの特性に気づき、正しく理解することで、子どもの生きづらさをやわらげ、成長を促すことができます。





発達障がいの種類

発達障がいには、次の種類があり、それぞれの障がいが重なり合う場合があります。

知的発達症

- ・知的な遅れ

注意欠如・多動症 (ADHD)

- ・不注意（集中できない）
- ・多動・衝動（じっとしてられない）

自閉スペクトラム症 (ASD)

- ・コミュニケーションのつまづき
- ・こだわりの強さや興味の偏り

限局性学習症 (SLD)

- ・「読む」「書く」「計算」などの力が、知的な能力に比べて極端に苦手

お子さんの発達が気になるときには、まずは、保育所（幼稚園）の先生や町の専門職などにご相談いただくことをお勧めします。



発達が気になったら（相談先）

子育て支援課

住所 芽室町東2条2丁目14-14番地
電話 0155-62-9721



こども家庭センター（めむろん）

住所 芽室町東4条4丁目5-5番地
（あいあい21 1階）
電話 0155-62-7830



子育て支援センター げんき

住所 芽室町西2条南6丁目
（めむろてつなん保育所に併設）
電話 0155-61-3030



発達支援センター ちいむ

住所 芽室町東6条南4丁目1
電話 0155-62-3159



情報



（芽室町HP）



（芽室町公式LINE）





芽室町こども発達支援ガイドブック

令和6年3月発行

芽室町子育て支援課子育て支援係/発達支援係

